

授業科目名	情報リテラシー論1 Information Literacy 1	担当教員名	野村 松信
時間割	火曜, 水曜, 金曜日 3時限	オフィスアワー	金曜日 10時30分~12時 (野村研究室)
授業科目区分	キャリア教育科目		
履修区分	必修科目	授業形態	講義・演習
配当年次・学期	1年次前期	単位数	2単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
<b>授業に関連するキーワード</b> Office ソフト, 情報セキュリティ, ソーシャルネットワークサービス			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 大学生活を送る上で必要な学内情報システムおよび図書館情報システムの利用方法を習得する。また、現在、広く社会で利用されている Office ソフトについての知識および情報セキュリティやソーシャルネットワークサービスに関する知識と技術を習得する。			
<b>授業の概要</b> 本授業では、まず、大学生活を送る上で必要な学内情報システム等の利用方法について説明する。次に、現在、広く社会で利用されている Office ソフト等の基本知識および情報活用能力（情報収集～表現）について学ぶ。さらに、社会基盤として利用されているインターネットに関する基礎的知識と様々な技術について解説した上で、社会生活に必要な情報セキュリティに関する知識・情報モラルやソーシャルネットワークサービスに関する基礎的知識と技術について理解を深める。			
<b>授業計画</b> 第1回 ガイダンス, 学内情報システムの利用方法 (1), パスワード設定等 第2回 学内情報システムの利用方法 (2), 図書館情報システムの利用方法 第3回 プレゼンテーションソフトとは 第4回 プレゼンテーションソフトによる効果的な表現方法 第5回 ワードプロソフトによるビジネス文書作成 第6回 表計算ソフトの関数機能とグラフ作成機能 第7回 ワードプロソフトと表計算ソフトの連携 第8回 情報とは何か 第9回 コンピュータと OS(Operation System)の基礎知識 第10回 コンピュータネットワークの基礎知識 第11回 インターネットと検索エンジンの歴史 第12回 情報倫理とは 第13回 情報技術とセキュリティ 第14回 インターネットと犯罪 第15回 ソーシャルネットワークサービスと情報モラル			
<b>授業時間外の学習内容等</b> Office ソフトの基礎操作の理解を深めるため、課題を課します。			
<b>評価方法</b> 授業態度 20%、課題点 80%で評価する			
<b>履修上の注意</b>			
<b>テキスト</b> 「情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー」高橋・原田・佐藤・岡目部著 (技術評論社)			
<b>参考書・参考資料等</b> 「よくわかる情報リテラシー」岡本監修 (技術評論社)			

授業科目名	地域プロジェクト演習 A Regional project Seminar A	担当教員名	菅原香織 裊 鎮爽
時間割	月曜日 1 時限	オフィスアワー	各教員による
授業科目区分	キャリア教育科目		
履修区分	選択科目	授業形態	演習 (集中)
配当年次・学期	1・2 年次・前期	単位数	2 単位
<b>前提とする授業科目、密接に関係する授業科目</b> キャリアデザイン1、キャリアデザイン2、インターンシップ1、インターンシップ2			
<b>授業に関連するキーワード</b> 地域プロジェクト アート デザイン 社会参加			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 本授業では、アーティストやデザイナーなど美術関係者が、どの様に社会と接点を持ち社会の中でどのような役割を担っているかを実践的に学ぶことを目標とする。そのために現在秋田県内各地で実際に行われている様々な地域プロジェクトに参加することで、今後自分がいかに社会と関わるかという意識を持つことをテーマとする。			
<b>授業の概要</b> 最初に秋田県内各地で行われてきた地域プロジェクトの事例を講義形式で紹介することでプロジェクトごとの特性や多様性を学ぶ。次に紹介された事例などを元に実際に自分が参加するプロジェクトを決めて、どのような形での参加が可能なのかを検討する。実際のプロジェクトへ参加し現場で学ぶことがこの授業の一番の重要なポイントとなる。プロジェクト参加後はレポートを作成しレポートの内容を報告会でプレゼンテーションする。			
<b>授業計画</b> 第1回 : 事例紹介1 (地域プロジェクトの実践例) 第2回 : 事例紹介2 (地域プロジェクトの実践例) 第3回 : 参加する具体的なプロジェクトの検討・プロジェクトチームごとの活動計画作成 第4-12回 地域プロジェクトへの参加 (学外活動) 授業としての参加期間は最低2~3日程度を目安とする (実際の参加日数については各プロジェクトの実情に合わせて柔軟に行う) 第13回 参加プロジェクトのふりかえりと情報共有 同じプロジェクトの参加者で、良かった点・反省点・成果物等 活動の様子のわかる画像などを共有する 第14回 レポートの作成 プロジェクトへの参加を受けて報告書を作成する レポートはポートフォリオに使用できるような体裁にし、 各自今後のキャリアに使用できるようにする。 第15回 レポート報告会 プレゼンテーション			
<b>授業時間外の学習内容等</b> 参加プロジェクトの活動スケジュールによって、打合せや準備・制作等の時間が必要となる			
<b>評価方法</b> プロジェクトへの取り組み状況 50% レポート 30% プレゼンテーション 20%			
<b>履修上の注意</b> 学外で行われる授業の際の交通費などは個人負担とする 年度ごとに参画するプロジェクトは変化するので実情に合わせて授業計画の内容は適宜変更する			
<b>テキスト</b> プロジェクトごとに適宜資料を配布する			
<b>参考書・参考資料等</b> 地域を変えるデザイナー-コミュニティが元気になる 30 のアイデア など			

授業科目名	アカデミック・リテラシー1 Academic Literacy 1	担当教員名	天貝 義教
時間割	火曜日 5 時限	オフィスアワー	
授業科目区分	教養科目ーキャリア教育科目		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1・2 年次前期	単位数	2 単位
前提とする授業科目	前提とする授業科目は特にない。		
密接に関係する授業科目	「哲学」等		
授業に関連するキーワード	言語、真理、論理、実在論、唯名論、概念論、記号論理学、論理実証主義		
授業の到達目標及びテーマ	学術的文章を作成するさいに求められる思考力・読解力・論述力ならびに学術的情報の活用力について、その基礎力を養うことを目的とする。		
授業の概要	授業の前半では、学術的な文章を論理的に読解し要約するための一般的かつ基本的な考え方を学ぶ演習をおこなう。後半では、実際の学術的な文章を読解し要約する演習をおこなう。		
授業計画	<p>第1回 アカデミック・リテラシーとはなにか。</p> <p>第2回 命題とはなにか、論理とはなにか。</p> <p>第3回 「うそつきのパラドックス」をめぐって</p> <p>第4回 「白馬非馬」をめぐって</p> <p>第5回 「みにくいアヒルの子の定理」をめぐって（1）</p> <p>第6回 「みにくいアヒルの子の定理」をめぐって（2）</p> <p>第7回 学術的文章（A）の読解と要約（1）</p> <p>第8回 学術的文章（A）の読解と要約（2）</p> <p>第9回 学術的文章（A）の読解と要約（3）</p> <p>第10回 学術的文章（A）の読解と要約（4）</p> <p>第11回 学術的文章（B）の読解と要約（1）</p> <p>第12回 学術的文章（B）の読解と要約（2）</p> <p>第13回 学術的文章（B）の読解と要約（3）</p> <p>第14回 学術的文章（B）の読解と要約（4）</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業時間外の学習内容等	授業において紹介した文献等をもちいて、各回の授業内容についての予習と復習をおこなうことが求められる。		
評価方法	授業への取り組み（口頭による発表および質疑応答など）と提出物（400 字程度の文章の作成など）を総合的に評価し、60 点以上を単位認定要件とする。		
履修上の注意	授業は演習形式ですすめるが、口頭による発表と質疑応答を適宜おこなう予定である。		
テキスト	特に定めない		
参考書・参考資料等	渡辺慧『知ること』ちくま学芸文庫 2011. (A) 木幡順三『美と芸術の論理—美学入門』勁草書房 1980. (B) 川野洋『芸術情報の理論』新曜社 1972. その他、授業において紹介する。		

授業科目名	情報リテラシー論2 Information Literacy 2	担当教員名	野村 松信
時間割	水曜 3 時限, 金曜日 4 時限	オフィスアワー	金曜日 10 時 30 分～12 時 (野村研究室)
授業科目区分	キャリア教育科目		
履修区分	選択科目	授業形態	講義・演習
配当年次・学期	1 年次後期	単位数	2 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
授業に関連するキーワード Office ソフト, メディア, HTML, JavaScript			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 現在, 広く社会で利用されている Office ソフトによるレポートや卒業論文等の作成時に必要な基礎知識や文書構造について理解し, 基本操作を取得する。また, 情報発信に必要な技術としてプログラミング言語 (HTML, JavaScript) に関する基礎技術を取得し, さらに, メディアに関する理解を深め, 高度情報化社会における情報活用能力を取得する。			
<b>授業の概要</b> 本授業では, 「情報リテラシー論 1」の内容を発展させ, まず, Office ソフトのビジネス分野での利用, レポートや論文作成など基礎知識や技術について紹介する。次に, 情報の加工や情報発信のために必要な技術として, 画像処理やプログラミングに関する基礎知識について紹介する。さらに, コンピュータリテラシーとメディアリテラシーの関係, 現代社会における情報メディアと人間の関わり, 情報セキュリティ, ソーシャルメディアを通しての情報活用能力 (情報収集～発信力) 等について理解を深める。			
<b>授業計画</b> 第 1 回 ガイダンス, ワープロソフトによる名刺・ビジネス文書作成 第 2 回 ワープロソフトによるレポート作成の基礎知識と基本操作 第 3 回 文書構造と数式・表・グラフ入力の基本操作 第 4 回 デジタル画像, 画像処理技術の基礎知識 第 5 回 HTML(Hyper Text Markup Language)とは 第 6 回 HTML の活用 (1) 第 7 回 HTML の活用 (2) 第 8 回 JavaScript の基礎知識 第 9 回 オブジェクト, 分岐処理, 繰り返し処理 第 10 回 インタラクティブ処理, 画像データ, スライドショー 第 11 回 キャンバス機能, アニメーション機能 第 12 回 マップ (地図) 活用 第 13 回 情報発信・サイト構築の基礎知識 第 14 回 メディアの変遷とメディアリテラシー 第 15 回 情報通信社会とリテラシー			
<b>授業時間外の学習内容等</b> Office ソフトの基礎操作の理解を深めるため, 課題を課します。			
<b>評価方法</b> 授業態度 20%、課題点 80%で評価する			
<b>履修上の注意</b>			
<b>テキスト</b> 「情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー」高橋・原田・佐藤・岡目部著 (技術評論社) 「JavaScript 入門 (改訂 2 版)」大津著 (技術評論社)			
<b>参考書・参考資料等</b> 「よくわかる情報リテラシー」岡本監修 (技術評論社)			

授業科目名	地域プロジェクト演習 B Regional project Seminar B	担当教員名	菅原香織 斐 鎮爽
時間割	水曜日 2 時限	オフィスアワー	各教員による
授業科目区分	キャリア教育科目		
履修区分	選択科目	授業形態	演習（集中）
配当年次・学期	1・2 年次・後期	単位数	2 単位
<b>前提とする授業科目、密接に関係する授業科目</b> キャリアデザイン1、キャリアデザイン2、インターンシップ1、インターンシップ2			
<b>授業に関連するキーワード</b> 地域プロジェクト アート デザイン コミュニケーション コーディネート マネジメント			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 現在秋田県内各地で行われている地域プロジェクトに参加し、プロジェクトのメンバーとして具体的な活動を行うことにより、アートやデザインが社会でどのような役割があるのかを実践的に学ぶことを目標とする。実際のプロジェクトに参加することで行動力・コミュニケーション力・コーディネート力・マネジメント力などを身につけ、学生自身のキャリア形成に活かすことをテーマとする。			
<b>授業の概要</b> 授業冒頭では各地で行われてきた地域プロジェクトの事例を紹介する。そうした事例を知ることで学生各自が自分で参加する学外のプロジェクトを決定する。プロジェクトへの参加は学生各自の能力に合わせた上で一番積極的に参加できる形式が望ましい。実際のプロジェクトへ参加し現場で学んだ後にレポートを作成しレポートの内容を報告会でプレゼンテーションする。			
<b>授業計画</b> 第1回：事例紹介1（地域プロジェクトの背景を知る） 第2回：事例紹介2（地域プロジェクトの背景を知る） 第3回：参加する具体的なプロジェクトの検討（参加内容・形式・スケジュール検討） 第4-12回 地域プロジェクトへの参加（学外活動） 授業としての参加期間は最低2～3日程度を目安とする （実際の参加日数については各プロジェクトの実情に合わせて柔軟に行う） 第13回 参加プロジェクトのふりかえりと情報共有 同じプロジェクトの参加者で、良かった点・反省点・成果物等 活動の様子のわかる画像などを共有する 第14回 レポートの作成 プロジェクトへの参加を受けて報告書を作成する レポートはポートフォリオに使用できるような体裁にし、 各自今後のキャリアに使用できるようにする。 第15回 レポート報告会 プレゼンテーション			
<b>授業時間外の学習内容等</b> 参加プロジェクトの活動スケジュールによって、打合せや準備・制作等の時間が必要となる			
<b>評価方法</b> プロジェクトへの取り組み状況 50% レポート 30% プレゼンテーション 20%			
<b>履修上の注意</b> 学外で行われる授業の際の交通費などは個人負担とする 年度ごとに参画するプロジェクトは変化するので実情に合わせて授業計画の内容は適宜変更する			
<b>テキスト</b> プロジェクトごとに適宜資料を配布する			
<b>参考書・参考資料等</b> 地域を変えるデザイン-コミュニティが元気になる 30 のアイデア など			

授業科目名	アカデミック・リテラシー 2 Academic literacy 2	担当教員名	白杉 悦雄
時間割	火曜日 5 時限	ホワイト	
授業科目区分	キャリア教育科目		
履修区分	選択科目	授業形態	演習
配当年次・学期	1・2 年次後期	単位数	2 単位
<b>前提とする授業科目、密接に関係する授業科目</b>			
前期アカデミック・リテラシー1 の未履修者も履修可能だが、中級レベルから授業を開始するので注意のこと。1,2 を続けて取ると受講者の理解がより深まる構成としている。			
<b>授業に関連するキーワード</b>			
日本語運用能力、コミュニケーション、プレゼンテーション			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b>			
<p>・日本語の「読む・書く・聴く・話す」力を磨き、コミュニケーションの基礎力を向上させることを目的とする。さらに、批評的態度と言語を体得して、他者の文章やプレゼンテーションに対して、質問やコメントできる力を身につけることを目的とする。</p> <p>1 大学の学修生活で求められる標準以上の「レポート」を書くことができる。</p> <p>2 大学の学修生活で求められる標準以上の「プレゼンテーション」を行うことができる。</p> <p>3 他者の文章やプレゼンテーションに対して論理的に発話できる。</p>			
<b>授業の概要</b>			
<p>・レポートを書くために必要な、文章の書き方、参考文献や資料の扱い方など、基本的な知識・手順・作法を身につける。</p> <p>・実際にレポートを書き、添削と推敲を繰り返しながら、レベルを高めていく。</p> <p>・口頭による発表（プレゼンテーション）の重要性を理解し、準備から実践までの流れを体験する。</p>			
<b>授業計画</b>			
<p>1 ガイダンス、アイスブレイク（前期を振り返り、自己評価し、課題を抽出）、グループワーク（g w）、資料「要約の仕方」、文章①を読み、要約し、g w</p> <p>2 資料「段落として書く（パラグラフ・ライティング）」、文章②を読み、要約、g w</p> <p>3 文章③を読み、要約し、g w</p> <p>4 資料「レポートとは？事実と意見」、資料「レポート評価基準」、文章（レポート見本）を読み、要約、g w、自分の選んだ本の紹介</p> <p>5 資料「メモ、レジメ」、ワークシートで作業、課題提出フォーマット、提出方法の指示</p> <p>6 レポート作成作業、提出物添削指導（個別面談形式）①</p> <p>7 レポート作成作業、提出物添削指導（個別面談形式）②</p> <p>8 評価C以上のレポートを配布・講評、グループで相互批評、「プレゼンテーションの注意点」、</p> <p>9 プレゼンテーション①、※レポート②の作成</p> <p>10 プレゼンテーション②</p> <p>11 レポート作成作業、提出物添削指導（個別面談形式）③</p> <p>12 レポート作成作業、提出物添削指導（個別面談形式）④</p> <p>13 レポート作成作業、提出物添削指導（個別面談形式）⑤、レポート②提出指示、スライド作成指示</p> <p>14 レポート配布・講評、プレゼンテーション③</p> <p>15 プレゼンテーション④、振り返りシート</p>			
<b>授業時間外の学習内容等</b>			
授業時は、グループワークや作成中のレポートの添削指導、プレゼンテーションが主となるので、レポート作成やプレゼンテーション準備等は、授業時間外に行う必要がある。			
<b>評価方法</b>			
レポート①（30%）、レポート②（30%）、プレゼンテーション（30%）、質問・発言（10%）			
<b>履修上の注意</b>			
第5週以降はパソコンを持参すること。図書館を活用すること。			
<b>テキスト</b>			
授業時に教員が適宜配布する。			
<b>参考書・参考資料等</b>			
授業時に随時紹介する。			

授業科目名	知的財産と運用	担当教員名	須田 洋平、Arts and Law
時間割	集中	オフィスアワー	—
授業科目区分	キャリア教育科目		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1・2年次前期	単位数	2単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
授業に関連するキーワード			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 芸術活動をするに当たって考慮すべき著作権の内容を理解し、安心して芸術活動ができるようにする。 著作権に関する問題の発生を予防し、問題が発生した場合に適切に対処できるようにする。			
<b>授業の概要</b> 作品を創造すると著作権が発生する。この著作権は、芸術家にとって作品創造のモチベーションの一つである。なぜなら、著作権により、芸術家が経済的利益を受けられるからだ。他方、新しい作品を創造するにあたり、既存の作品を参照する、利用するということがある。他者の作品には著作権があり、その著作権との関係において、自らの創造行為に対して留意すべき点が存在する。この授業では、著作権に関する基本的かつ実践的なルールを学び、さまざまな実例を紹介しながら、問題点を明らかにし、ルールを知った上で安心して芸術活動を進められるようにする。			
<b>授業計画</b> 第1回 インTRODクシヨン：知的財産の基礎知識（著作権、著作人格権、特許、商標）。著作権とは何か？ 第2回 著作物（基礎編）著作物とは何か？著作権侵害例とその結末。 第3回 著作物（応用編）美術・デザイン・建築に対する著作物とはどのようなものがあるのか？著作権侵害例とその結末。 第4回 著作権：誰が著作者となるのか？著作権を持っているとどのような権利が認められるのか？ 第5回 著作者人格権：著作物の作者が有する人格権とはどのようなものか？二次的著作権とはどのようなものか？ 第6回 著作権の所持者とは。美術／音楽／演劇／書籍（画集・雑誌）。 第7回 インターネット、ソーシャルメディア上の著作権、Youtube、ブログ等における引用のルール、二次創作の定義とは？プログラムのオープンソース・コード。 第8回 デザインにおける著作権、フェアユース、クリエイティブコモンズ、引用／類似が許される限界の実例、オリンピック・エンブレム問題等の分析。 第9回 映像作品における著作権、映像ソースの取り扱い、既存映像引用の範疇、撮影して良もの、悪いもの（肖像権等）、既存音楽の使用許可取得法（JASRAC）、著作権侵害例の分析。 第10回 美術作品（絵画／彫刻／インスタレーション）における著作権、オマージュと盗用の違い、創造的発展と違法性、どんな場合に侵害になるのか？ 第11回 プロジェクト型作品、インタラクティブ（観客参加型）作品、パフォーマンス作品等における著作権の問題。留意すべき点。 第12回 論文、論考、冊子、書籍、広告に関する著作権と留意点。 第13回 アートマネジメントの運営、広報、記録、契約書に関する著作権と留意点。 第14回 著作権の保護期間と国際保護：著作権はいつまで保護されるのか？外国でも保護されるのか？外国の作品は日本で保護されるのか？ 第15回 権利保護とトラブル時の対処：著作者として自分を守るために何をすべきなのか？著作権を侵害されたらどうするべきか？侵害してしまったらどうするべきか？			
<b>授業時間外の学習内容等</b> 出席率が75%未満の場合、単位認定をしないので注意すること。			
<b>評価方法</b> 講義への参加状況が40%、レポート試験が60%である。			
<b>履修上の注意</b> レポート試験の問題は、最終講義時に出題する。解答に当たっては、著作権法に違反しない範囲でどのような文献を参考にしても構わないので、必ず期限内に解答すること。また、他の学生の解答を参照したと思われる場合は単位認定をしないので注意すること。			

授業科目名	学外実習(インターンシップ1) <i>Internship 1</i> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">実</span>	担当教員名	キャリアセンター教員 特別講師
時間割	月曜日 5時限	オフィス	曜日 時～ 時(キャリアラウンジ)
授業科目区分	キャリア教育科目		
履修区分	選択科目	授業形態	実習
配当年次・学期	1・2・3年次 通年	単位数	1単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 「キャリアデザイン1」「キャリアデザイン2」「インターンシップ2」と内容が関連している			
授業に関連するキーワード 就労体験 実務体験 キャリアプラン 社会人基礎力			
授業の到達目標及びテーマ 自らの将来のキャリアに関連した企業の就労体験や、希望する業種の実務体験を通して、卒業後の進路をより具体的に描けるようになることを目標とする。また、実社会において社会人として求められる素養を学び、自分の課題を発見することで、卒業までのキャリアプランを立てられるようになる。			
授業の概要 本授業では、事前準備として実務専門家から最新の情報、基本的なマナー等を学び、学生自身によって実習先の選定と交渉を行う。7月末を目標に実施計画書を提出。夏期休業中に民間企業・団体等でインターンシップを実施。報告書・レポートを作成、報告会にて発表する。報告会は全員参加とし、他の学生の実習先での経験を聞くことで、より多様なキャリアを知る機会とする。			
授業計画 事前指導1 インターンシップ授業内容説明 ケーススタディ(過去の実例紹介) (提出書類・期限等の説明、過去の受入先企業や団体などの情報提供) 事前指導2 現状のインターンシップの流れ (実習先の探し方・選び方、業界研究の方法) 事前指導3 アポイントの取り方・ビジネスマナー (実習先での心構え コンプライアンス遵守) 交渉 受入先企業の選定とアポイントメント インターンシップの実施(集中実習) 各自が選んだ企業や団体等の受入先で実際の実習を行う。 実習の期間は1週間(実働5日間)程度行う。 (受入先の都合や業務内容によって多少の変更は認める。※要相談) 事後指導1 報告書・レポートの作成 事後指導2 インターンシップ報告会1 事後指導3 インターンシップ報告会2 ふりかえり・まとめ			
授業時間外の学習内容等 業界研究、受入先企業の選定とアポイントメント、提出書類作成、実習参加は授業時間外に行う。			
評価方法 インターンシップ先選定とその交渉・調整(20%)、インターンシップ終了後の報告書・レポート(40%)、企業からの評価報告書(40%)で評価して、100点満点で60点以上を単位認定要件とする。			
履修上の注意 実習受け入れ先は学生が各自で見つけ交渉する。インターンシップ先までの交通費や受入先で必要になる経費は学生の実費となる。実習期間は夏期休業中等、学業に支障がない期間で参加すること			
テキスト 指定なし			
参考書・参考資料等 随時提示する			

授業科目名	学外実習(インターンシップ2) <i>Internship 2</i> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">実</span>	担当教員名	キャリアセンター教員 特別講師
時間割	月曜日 5 時限	オフィス	曜日 時～ 時 (キャリアラウンジ)
授業科目区分	キャリア教育科目		
履修区分	選択科目	授業形態	実習
配当年次・学期	1～3年次 通年	単位数	2単位
<b>前提とする授業科目、密接に関係する授業科目</b> 「キャリアデザイン1」「キャリアデザイン2」「インターンシップ1」と内容が関連している			
<b>授業に関連するキーワード</b> 就労体験 実務体験 キャリアプラン 社会人基礎力			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 自らの将来のキャリアに関連した企業の就労体験や、希望する業種の実務体験を通して、卒業後の進路をより具体的に描けるようになることを目標とする。また、実社会において社会人として求められる素養を学び、自分の課題を発見することで、卒業までのキャリアプランを立てられるようになる。			
<b>授業の概要</b> 本授業では、事前準備として実務専門家から最新の情報、基本的なマナー等を学び、学生自身によって実習先の選定と交渉を行う。7月末を目標に実施計画書を提出。夏期休業中に民間企業・団体等でインターンシップを実施。報告書・レポートを作成、報告会にて発表する。報告会は全員参加とし、他の学生の実習先での経験を聞くことで、より多様なキャリアを知る機会とする。			
<b>授業計画</b> 事前指導1 インターンシップ授業内容説明 ケーススタディ (過去の実例紹介) (提出書類・期限等の説明、過去の受入先企業や団体などの情報提供) 事前指導2 現状のインターンシップの流れ (実習先の探し方・選び方、業界研究の方法) 事前指導3 アポイントの取り方・ビジネスマナー (実習先での心構え コンプライアンス遵守) 交渉 受入先企業の選定とアポイントメント インターンシップの実施 (集中実習) 各自が選んだ企業や団体等の受入先で実際の実習を行う。 実習の期間は2週間(実働10日間)程度行う。 (受入先の都合や業務内容によって多少の変更は認める。※要相談) 事後指導1 報告書・レポートの作成 事後指導2 インターンシップ報告会1 事後指導3 インターンシップ報告会2 ふりかえり・まとめ			
<b>授業時間外の学習内容等</b> 業界研究、受入先企業の選定とアポイントメント、提出書類作成、実習参加は授業時間外に行う。			
<b>評価方法</b> インターンシップ先選定とその交渉・調整(20%)、インターンシップ終了後の報告書・レポート(40%)、企業からの評価報告書(40%)で評価して、100点満点で60点以上を単位認定要件とする。			
<b>履修上の注意</b> 実習受け入れ先は学生が各自で見つけ交渉する。インターンシップ先までの交通費や受入先で必要になる経費は学生の実費となる。実習期間は夏期休業中等、学業に支障がない期間で参加すること。			
<b>テキスト</b> 指定なし			
<b>参考書・参考資料等</b> 随時提示する			

授業科目名	グラフィック・レコーディング 演習 Graphic Recording Exercises	担当教員名	菅原香織 平元美沙緒
時間割	木曜日 3 時限	オフィスワ	木曜日 9 時～12 時 (研究室)
授業科目区分	キャリア教育科目		
履修区分	選択科目	授業形態	演習
配当年次・学期	2・3 年次前期	単位数	2 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 地域プロジェクト演習 A・B			
授業に関連するキーワード 議論の可視化 ビジュアライゼーション ファシリテーション ワークショップ			
授業の到達目標及びテーマ 議論や講演などを文字や記号、イラストなどを用いて、リアルタイムに手描きで記録し可視化する技術「グラフィック・レコーディング (GR)」を学び、会議や講演、まちづくりワークショップの場などで活躍できる能力を身につけることを目標とします。			
授業の概要 本授業では、様々な話し合いの場における GR の模擬練習によって、基本的な GR の技術を習得します。また学外の GR の現場での実習を通して実践的なスキルアップを図ります。担当教員と学内教職員、第一線で活躍するプロフェッショナル (外部講師) と連携して授業運営を行います。			
授業計画 第 1 回: ガイダンス (GR とは ビジュアライジング・スキル 自己紹介) 第 2 回: グラフィック・パターンと道具の使い方 (文字・線・パターンを描く) 第 3 回: グラフィックの開発 (速く描く 短文要約からグラフィックを開発) 第 4 回: タイムラグ・レコーディングの練習 1 (物語を描く) 第 5 回: タイムラグ・レコーディングの練習 2 (長文を描く) 第 6 回: タイムラグ・レコーディングスキルのふりかえりと共有 第 7 回: リアルタイム・レコーディングの練習 1 (スピーチを描く/プレゼン動画) 第 8 回: リアルタイム・レコーディングの練習 2 (対話を描く/複数人の対話動画) 第 9 回: リアルタイム・レコーディングの練習 3 (2 人の対話をリアルタイムに描く) 第 10 回: リアルタイム・レコーディングの練習 4 (複数人の対話をリアルタイムに描く) 第 11 回: リアルタイム・レコーディングのふりかえりと共有 第 12 回: 講義 (グラフィック・レコーディングの意義と活用) 第 13 回: 講義 (グラフィック・レコーディングの提案力トレーニング/実習打合せ) 第 14 回: 現場実習 第 15 回: グラフィック・レコーディングのループリック・講評 ※ 現場実習先については授業内で告知をします。			
授業時間外の学習内容等 復習や練習、学内外の会議やワークショップなどの機会に積極的に参加しスキルアップを図る			
評価方法 課題 80% 授業への取組み状況 20% (積極性・ポートフォリオの提出)			
履修上の注意 教材 (筆記用具, 材料など授業内で指示) と学外実習の際の交通費は個人負担とする 積極的に参加し、その際の GR を撮影し各自ポートフォリオとしてまとめ提出する			
テキスト 状況に応じたテキストを授業時に配布する			
参考書・参考資料等 Graphic Recorder—議論を可視化するグラフィックレコーディングの教科書 (清水 淳子 著) ファシリテーション・グラフィック 議論を見える化する技法 (堀 公俊 著)			

授業科目名	キャリアデザイン1 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">実</span> Career Design 1	担当教員名	キャリアセンター教員 特別講師
時間割	月曜日 4時限	オフィスアワー	(キャリアラウンジ)
授業科目区分	キャリア教育科目		
履修区分	必修科目	授業形態	講義
配当年次・学期	2年次 通年(隔週)	単位数	2単位
<b>前提とする授業科目、密接に関係する授業科目</b> 「キャリアデザイン2」、「インターンシップ」と内容が関連している。			
<b>授業に関連するキーワード</b> キャリア 生き方 進路 働き方 ポートフォリオ インターンシップ			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 学業と大学生生活に密接に関係しているキャリアデザインの意義を理解し、キャリアデザインを主体的に行えるようになるための基礎知識を習得する。自己理解を深め、実現したい将来像やそこに至るプロセスを具体的に描けるようになる。学修の成果を1冊のポートフォリオとしてまとめる。			
<b>授業の概要</b> 自分の経験や人生観を念頭におきながら自ら進路を設計することを「キャリアデザイン」と解釈し、社会が求める人材、業界・職種を理解し、キャリアデザインの基礎知識を習得する。専攻別キャリアデザイン事例を聴講し自身の進路の可能性を広げ専攻選択の参考とする。実務専門家等による講義を含む。			
<b>授業計画</b> ※実際の社会の動きに合わせて授業計画の見直し・順番などを入れ替えて行うことがあります。 第1回 : キャリアデザインの意義 第2回 : ポートフォリオの必要性理解と基礎知識の習得① 第3回 : インターンシップの現状 第4回 : 専攻別キャリア事例(景観デザイン専攻教員と卒業生) 第5回 : 専攻別キャリア事例(アーツ&ルーツ専攻教員と卒業生) 第6回 : 専攻別キャリア事例(コミュニケーションデザイン専攻教員と卒業生) 第7回 : 専攻別キャリア事例(ビジュアルアーツ専攻教員と卒業生) 第8回 : 専攻別キャリア事例(ものづくりデザイン専攻教員と卒業生) 第9回 : 社会が求める人材 労働市場分析 業界・職種の概要 第10回 : 秋美クリエイティブサミット(クリエイティブ業界研究) 第11回 : 秋美クリエイティブサミット(クリエイティブ職種研究) 第12回 : ポートフォリオの必要性理解と基礎知識の習得② 第13回 : 自己適正理解 適正診断テストとフィードバック 第14回 : 作家&デザイナーのキャリアデザイン事例 第15回 : 組版・文字の組み方の基礎知識 第16回 : 試験(キャリアデザインマップの記入 ポートフォリオの提出)			
<b>授業時間外の学習内容等</b> 毎回授業時に提出する、ポートフォリオ用データの編集デザイン・印刷を必要とする。			
<b>評価方法</b> 授業への参加態度 10% (主体性・積極性など) リアクションペーパーの記入状況 30% ポートフォリオ(作品数・編集デザイン等) 30% キャリアデザインマップの記入状況 30%			
<b>履修上の注意</b> 毎回提出するリアクションペーパーへの記入・提出をもって出席とします。学籍番号・氏名・所定の欄への記入がないもの、内容が不十分なものは欠席とみなしますので注意してください。			
<b>テキスト</b> 指定なし			
<b>参考書・参考資料等</b> 随時提示する			

授業科目名	コミュニティデザイン演習 Community Design	担当教員名	官能 右泰
時間割	(前)火曜日 5 時限 (後)金曜日 3 時限	オフィスワーカー	
授業科目区分	キャリア教育科目		
履修区分	選択科目	授業形態	演習
配当年次・学期	2 年次 通年	単位数	4 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
授業に関連するキーワード			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> プレゼンテーションは、デザイナー、クリエイターにとって、デザインを他社に知ってもらう最も大切なクリエイティブ行為であり、クライアントからコンセプトを明示された後、表現戦略やデザイン案を提示することである。この授業を通じて、コミュニティデザインにおける感性を養うとともに、伝統文化とデザインについての能力高めることを目標としている。			
<b>授業の概要</b> この授業では、地域にある「彌高神社」と産学連携による具体性のあるテーマの設定のもとに、斬新なオリジナル御守のデザイン開発を実現させることを視野に入れ、実践的な体験とリサーチを基本として、様々な視点に立ってコミュニティデザイン演習を行う。 [注]授業の30%程度、学外授業（土・日曜日を含む）を実施する。			
<b>授業計画</b> 第1回 オリエンテーション 第2回 履修者決定（抽選）、チーム編成、制作スケジュールと詳細説明。 ※4月下旬（日）神輿渡御祭／彌高神社…参加は任意 第3回 神社と御守の説明、DVD鑑賞（日本の神社百景）。 第4回・5回 5. 1（火）学外授業／神社の例祭（宵宮祭）体験・調査（午後4時30分集合） 第6回・7回 御守のアイデア展開。 第8回・9回 御守の試案制作。 第10回 中間チェック。中間プレゼンテーション資料作成。 第11回・12回 学外授業／中間プレゼンテーション。 第13回・14回 御守の再検討・制作。 第13回・16回 最終プレゼン準備・予行演習。 第17回・18回 学外授業／最終プレゼンテーション。 第19回～22回 授業成果発表会（1月予定）のための撮影・準備作業 第23回～26回 台紙作成、御守詰め込み作業、巫女説明会、巫女体験（年末年始） 第27回～30回 授業成果発表会準備（搬入・搬出）およびギャラリー・トーク開催。 ※授業時間内での制作に重点を置くが、必要があれば時間外にも制作を進めること。			
<b>授業時間外の学習内容等</b>			
<b>評価方法</b> 授業における御守製作会社との最終プレゼンテーションとグループの取り組み姿勢を総合評価して、 100点満点で60点以上を単位認定要件とする。			
<b>履修上の注意</b> 数名単位によるグループ演習、学外授業の関係上、時間厳守で遅刻・欠席をしないこと。学外授業は限られた空間の神社事務所内で実施するため、抽選による選抜（15名以内）を実施いたします。			
<b>テキスト</b> 授業中に資料コピーを適宜配布する。			
<b>参考書・参考資料等</b> 特になし			

授業科目名	キャリアデザイン2 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">実</span> Career Design 2	担当教員名	キャリアセンター教員 特別講師
時間割	月曜日 4時限	オフィスアワー	(キャリアラウンジ)
授業科目区分	キャリア教育科目		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	3年次 通年(隔週)	単位数	2単位
<b>前提とする授業科目、密接に関係する授業科目</b> 「キャリアデザイン1」の履修を前提とする。「インターンシップ」と内容が関連している。			
<b>授業に関連するキーワード</b> キャリア 生き方 進路 働き方 ポートフォリオ インターンシップ			
<b>授業の到達目標及びテーマ</b> 人生を俯瞰的に観察し自身のキャリアを切り拓く力を養うことを目標に、職業人生のスタートとなる「就活」をテーマとして、自己の適正の見極めから、職業・業界に関する知識を身に付け、自分自身が納得できる卒業後の進路を選択し、具体的な行動計画を立て、実践することができる。			
<b>授業の概要</b> 本授業では、自己の適正理解から就活方法を模索・検証し、具体的行動をとるために、即実践に結びつく内容とする。自身の進路選択に対応した実践的な内容を取り込み、学生が自ら行動できるための知識とノウハウを習得する。実務専門家による講義も含まれる。			
<b>授業計画</b> ※ 実際の社会の動きに合わせて授業計画の見直し・順番などを入れ替えて行うことがあります。 第1回 : スタートアップ講座 (適正の見極めから 業界・企業の抽出のしかた スケジュール) 第2回 : インターンシップの現状と対策 第3回 : 採用試験対策 (SPI 理解と一般常識理解) 第4回 : ポートフォリオ講座 (応用編) ① 第5回 : 自己PRと志望動機の目的と事前準備・書き方のコツ 第6回 : 特別講師による講義 ① 第7回 : 特別講師による講義 ② 第8回 : 日本経済とマーケット分析 業界理解の必要性と業界概要 第9回 : 秋美クリエイティブサミット (クリエイティブ業界研究) 第10回 : 秋美クリエイティブサミット (クリエイティブ業界研究) 第11回 : ポートフォリオ講座 (応用編) ② & 個別指導 第12回 : グループディスカッション 第13回 : 特別講師による講義 ③ 第14回 : エントリーシート・履歴書の書き方講座および添削指導 第15回 : 面接対策講座 第16回 : 試験 (キャリアデザインマップの記入 ポートフォリオの提出)			
<b>授業時間外の学習内容等</b> 毎回授業時に提出する、ポートフォリオ用データの編集デザイン・印刷を必要とする。			
<b>評価方法</b> 授業への参加態度 (主体性・積極性など) 10% リアクションペーパーの記入状況 30% ポートフォリオ (作品数・編集デザイン等) 30% キャリアデザインマップの記入状況 30%			
<b>履修上の注意</b> 毎回提出するリアクションペーパーへの記入・提出をもって出席とします。学籍番号・氏名・所定の欄への記入がないもの、内容が不十分なものは欠席とみなしますので注意してください。			
<b>テキスト</b> 指定なし			
<b>参考書・参考資料等</b> 随時提示する			